

平成 28 年度第 2 回 備前市総合教育会議

日時：平成 28 年 8 月 10 日（水）

15：30～

場所：市民センター 2 階 講座室

次 第

開会

- 1 市長あいさつ
- 2 教育長あいさつ
- 3 協議事項
(1) 小中一貫教育の進め方について
- 4 その他

閉会

【配布資料】

- 資料 01 出席者名簿
- 資料 02 備前市の小・中学校
- 資料 03 びぜん学校づくりサロンについて
- 資料 04 学校施設の複合化の例

備前市総合教育会議構成員名簿

職名	氏名
市長	よしむらたけし 吉村武司
教育長	すぎうらしゅんたろう 杉浦俊太郎
教育委員	たかはしちあき 高橋千亜紀
教育委員	おちみな 越智聖名
教育委員	こまざわまさる 駒澤勝
教育委員	さらたにのぶひさ 更谷暢久

事務局

事務局長 (総合政策部長)	佐藤行弘
事務局次長 (企画課長)	野道徹也
担当者 (企画戦略係長)	杉山麻里

関係者

教育部長	谷本隆二
教育部 教育部次長兼小中一貫教育推進課長	川口貴大
教育部 教育総務課長	芳田猛
教育部 学校教育課長	磯本宏幸
教育部 生涯学習課長	高橋清隆
市民生活部長	大西武志
保健福祉部長	高山豊彰
まちづくり部長	中島和久
東京事務所長	梶藤勲
市民生活部 市民協働課長	眞野なぎさ
保健福祉部 介護福祉課長	高見元子
まちづくり部 まち営業課長	田原義大
まちづくり部 まち整備課長	平田惣己治

備前市の小・中学校

○施設隣接型 ○施設分離型

- ・三石中学校区 ・伊里中学校区

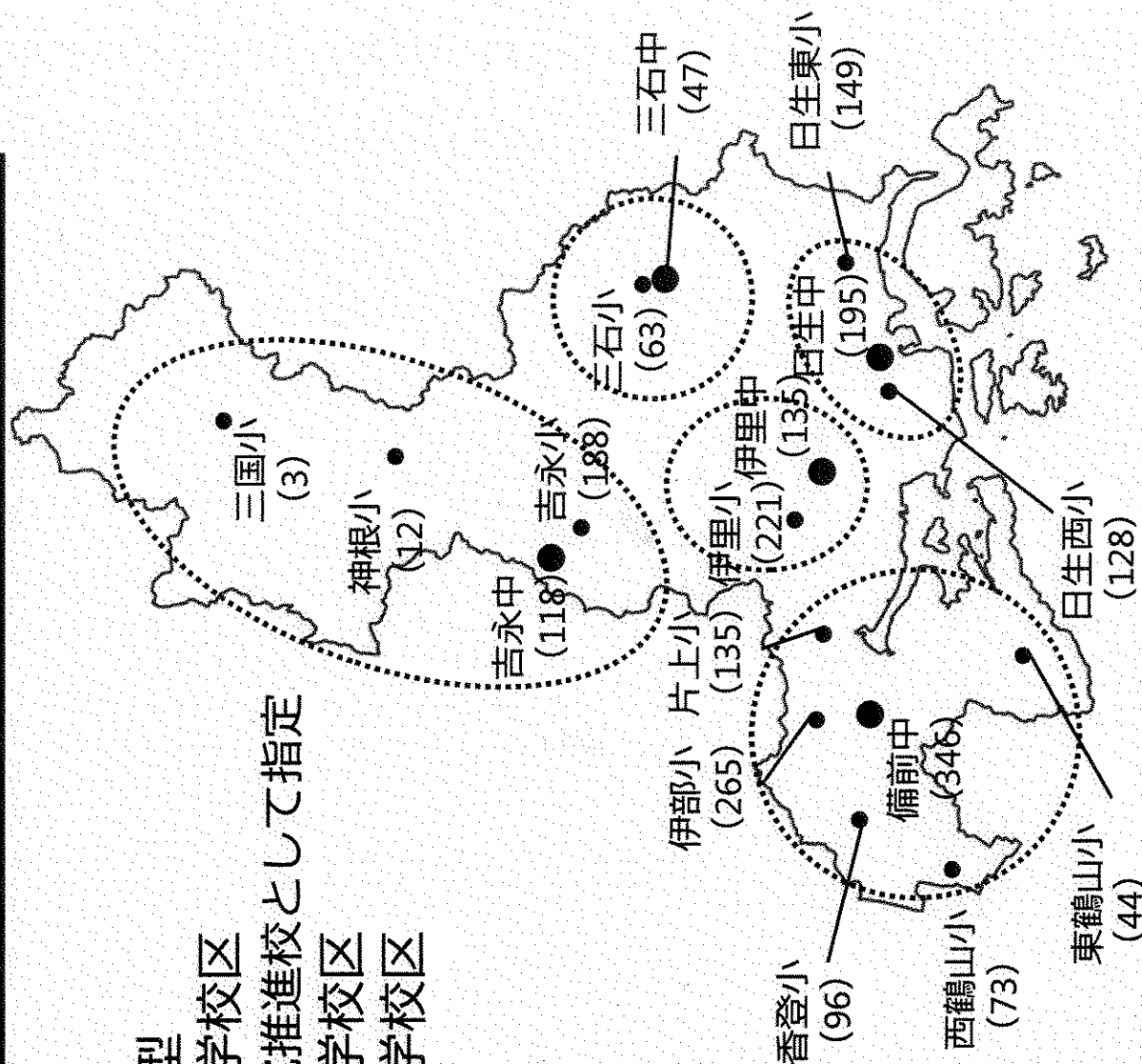
※研究推進校として指定

- ・日生中学校区
- ・吉永中学校区

○複合型

- ・備前中学校区

※伊部小学校については施設一体型を目指してモデル校とし、施設調査・整備を検討する。なお、他の小学校は、東鶴山小学校をモデルにカリキュラムの共通化を視野に施設分離型を検討する。



※学校名の後の（ ）書きは児童生徒数（H28.5.1現在）

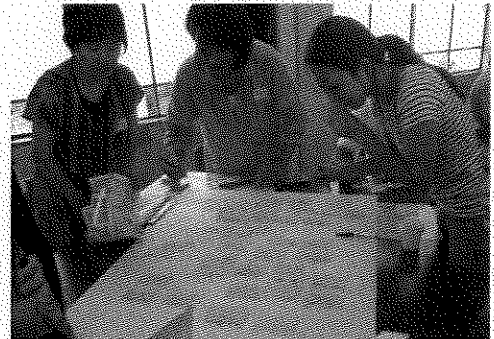
びぜん学校づくりサロン（備前中学校区）について

- 市教育委員会は7月2日（土）、伊部公民館で、びぜん学校づくりサロン（備前中学校区）を開催した。参加者は事前に応募した30名（男性・女性、保護者・地域住民それぞれの属性の方が参加した。在住地域は伊部、片上、香登、西鶴山、東鶴山の全ての小学校区からとなった）。

びぜん学校づくりサロンとは

小中一貫教育の進め方等について、学校に子供を通わせる保護者を含む地域住民が意見交換を行うもの。中学校区ごとに開催。出された意見は、教育委員会が施策を検討する際に参考とする。

- 当日は、市教育委員会から備前市における小中一貫教育の現状等について説明した後、参加者が少人数のグループで意見交換を行い、学校づくりのアイデアをまとめていった。



- 各グループからは、備前中学校区の実情を踏まえ、
- ・ 英語の特設コースの設置、交流事業やイベントの活用によるコミュニケーションの機会の提供など英語学習を充実したり、人口・産業などの備前市が抱える課題を考察する学習を実施したりしてはどうか
 - ・ 職業体験、自然体験、農業体験など学校外の社会を学ぶ機会を設けてはどうか
 - ・ 全校合同で運動会や合唱など学校行事を実施してはどうか
 - ・ 小・中学生の縦割り組織をつくり、上級生が下級生に勉強を教えてはどうか
 - ・ 校舎の一角に小・中学生の保護者や地域の方が交流し学び合えるスペースを設けてはどうか
 - ・ 学校づくりに当たっては、伊部小学校の移設や図書館の併設などまちづくりの視点からも検討するべきではないかなどの意見が出された。

※ 伊里中学校区分は6月25日（土）に開催済み。三石中学校区、日生中学校区、吉永中学校区については、8月以降順次開催する予定。

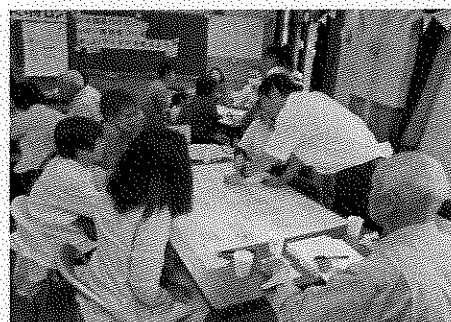
びぜん学校づくりサロン（伊里中学校区）について

- 市教育委員会は6月25日（土）、緑陽会館（伊里中学校区内）で、びぜん学校づくりサロン（伊里中学校区）を開催した。参加者は事前に応募した29名。

びぜん学校づくりサロンとは

小中一貫教育の進め方等について、学校に子供を通わせる保護者を含む地域住民が意見交換を行うもの。中学校区ごとに開催。出された意見は、教育委員会が施策を検討する際に参考とする。

- 当日は、市教育委員会から備前市における小中一貫教育の現状等について説明した後、参加者が少人数のグループで意見交換を行い、学校づくりのアイデアをまとめていった。



- 各グループからは、伊里中学校区の実情を踏まえ、
 - ・ 遠足や運動会、文化祭などの学校行事を小・中学校合同で実施してはどうか
 - ・ 職員室や図書室、公民館など小・中学校や地域住民が共通に使える施設を設けてはどうか
 - ・ 地域の方の協力を得て、英語や茶道など子供が得意なことを伸ばしていってはどうか
 - ・ 中学校の部活動を活性化するため、小学校段階から行っているスポーツ少年団の取組と中学校の部活動を連携させたり、小学校段階から部活動に参加させたりしてはどうか
 - ・ 小中一貫教育の推進に当たっては、伊里中学校区だけではなく、児童生徒数や財政状況を踏まえ、市全体の中学校区の在り方も併せて考えるべきではないか
 - ・ 小・中学校共通の制服等についても考えてはどうかなどの意見が出された。

※ 備前中学校区分を7月2日（土）に伊部公民館で開催。三石中学校区、日生中学校区、吉永中学校区についても、8月以降順次開催する予定。

(参考)

学校施設の複合化の例

埼玉県 志木市立志木小学校

地域に開かれた学校として、児童と地域の人々が直接交流の機会を持つことで学習の相乗効果が現れることを期待し、公民館、図書館、放課後児童クラブを複合。

千葉県 市川市立第七中学校

多世代の交流の実現に向けた地域の拠点として、市民ホール、保育所、老人デイサービスセンター、ケアハウスを複合。

石川県 かほく市立宇ノ気中学校

体育館を社会体育施設として整備。総合型地域スポーツクラブが施設管理を行うとともに、授業や部活動に協力。

【参考】

○ 公立小中学校施設の複合化事例は全国で 10,567 校あり、公立小中学校数全体の約 35 %を占めている。

○ 複合化の効果と課題は次のとおり。

(効果)

- ①施設機能の共有化による学習環境の高機能化・多機能化
- ②児童生徒の施設利用者との交流
- ③地域における生涯学習やコミュニティの拠点の形成
- ④専門性のある人材や地域住民との連携による学校運営への支援
- ⑤効果的・効率的な施設整備

(課題)

- ①地方公共団体内の部局間の連携、教職員や地域住民の合意形成
- ②施設計画上の工夫

「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について（平成 27 年 11 月）」より